

教員の職能開発とカリキュラム開発を通して、 万人に質の高い教育を提供するために

ソルダッド・A・ウレップ
フィリピン大学国立理数科教育開発研究所
(UP NISMED)

教育の質を改善することは非常に重要である。教育の質向上は、グローバルには「万人のための教育」の目標であり、**Education 2030** の重要なテーマとなっている。フィリピンでは、フィリピン大学国立理数科教育開発研究所 (UP NISMED) が教育の質向上を使命としており、その達成に取り組んでいる。具体的には基礎教育と教員養成レベルの理数科教育において、カリキュラム開発、教員の職能開発、および研究を通じて取り組んでいる。しかし、様々な制約によって、限定的な貢献しかできていない。

この目的のために、**JICA** はフィリピン理数科教師訓練センタープロジェクト (SMEMDP) というプロジェクト技術協力を通じて **UP NISMED** を支援し、**UP NISMED** が中心となって同プロジェクトを実施した。またこのプロジェクトに、教育省、科学技術省、高等教育委員会が協力した。**SMEMDP** は「万人のための教育」が出現する前から、1994年から1999年にかけて実施された。2015年に、質の高い教育に関して **Education 2030** が開始された。これは学習者中心の教育的アプローチや、学習者が高次の思考力を伸ばせるようなアプローチを用いるように教員の能力開発を図ることなどに言及している。また、このようなアプローチを用いた教材についても言及している。

特に **SMEMDP** は教材、メソッド、教員の職能開発に重点を置き、当時フィリピンの理数科教育の大勢を占めていたティーチング・バイ・テリング・アプローチを改善しようとした。その上位目標は、**UP NISMED** で教師トレーナーに研修をすることによって、初等・中等教育の理数科教員の能力が向上することであった。**SMEMDP** は主に能力構築をめざすプロジェクトで、**UP NISMED** を初等・中等教育の理数科教師トレーナーを訓練する優れた研究所にすることを目標とし、実験や実体験に重きを置いた教員研修コースを計画・実施したり指導方法や教材を開発したりできるリーダー的役割を果たせる教師トレーナーの育成をめざした。

SMEMDP は、日本の専門家から **UP NISMED** の職員に技術移転し、**UN NISMED** の職員を対象にしたカウンターパートの研修を日本で実施し、必要な機器や本を提供し、実体験を用いた指導教材やメソッドを開発した。また、**UP NISMED** の教師教育者たちが習得した知識やスキルを応用し、開発した指導教材を活用できるようにリーダー・トレーナーたちに全国研修を実施し、各地域のリーダー・トレーナーをフォローし、学校教員に研修を実施した。研修はカスケード式で実施された。

SMEMDP は、理数科教育の改善をめざす包括的かつ大規模な介入であり、初等・中等教育レベルのすべての理数系教科、つまり初等教育の理科・算数、中等

教育の地球環境学・生物・化学・物理・数学を対象とした。フィリピン全国 14 地域から、学校教員、管理職、教員養成校の教育者などが参加した。これにより、同プロジェクトはすべての関係者から支持された。SMEMDP は「すべての人に質の高い教育を」提供するための活動を牽引する機関の一つとなった。「すべての」は同プロジェクトが幅広い受益者を対象とすることを意味した。

SMEMDP を通じて、全国研修のカリキュラムが作られ、研修が実施され、教師トレーナーのための理数科の参考書が発行され、ポスター、授業ビデオ、即興の教材が作られた。プロジェクトの終了後も UP NISMED は学校教員のために参考書などのカリキュラム教材を開発し続けた。また同プロジェクトの成果物や、職員のより高い知識と技術を活用して、他のプロジェクトの教員研修プログラムを、フィリピンの参加者だけでなく、アジアやアフリカの国々からの参加者に対しても実施した。

2006 年以来、フィリピンは UP NISMED を通じて、タイのコンケン大学および日本の筑波大学が指導する APEC 授業研究プロジェクトに参加している。これによって、フィリピンのいくつかの学校、カレッジ、大学に授業研究を紹介し、この学校ベースの職能開発モデルを用いて、問題解決による算数・数学の授業と、探究に基づく理科の授業を推進した。UP NISMED は教員研修プログラムが必要かつ重要だと認識しているが、それだけでは十分ではない。授業研究は、研修プログラムでは限界がある教員の教科内容の知識や教授法の知識を深めるのに役立つ。これはフィリピンの幼稚園から高校 3 年までのカリキュラムを改革するために教員の能力を高めるのに非常に重要である。UP NISMED は、その成果物とともに、職員および授業研究に協力している教員の経験や学びをまとめて、授業研究のやり方に関して 2 冊の本とガイドブックを作成した。

UP NISMED が授業研究を実施している学校の教員や管理職は、授業研究を通じて教員も児童生徒も多くを学んでいることをはっきりと示す証拠を目にして励まされている。この点からも、フィリピンの今後の国際協力は、授業研究を継続し拡大することに取り組むべきである。日本の教員や教育者がフィリピンの学校教員や教員養成機関の教育者と協力して授業研究をするのもいいかもしれない。これはすべて、授業研究を通じて教員の能力を高めることにより、児童生徒の学びと思考を改善するように、授業研究を校風の一部とするようなモデルにつながるかもしれない。教員や教員養成校の教育者が、理数科に関する日本の教科書やその他のカリキュラム用教材を使って授業研究をできるようになってもいいだろう。授業研究で教員が具体的に何を学ぶか、研究授業で児童生徒が何を学ぶかなどのテーマについて共同研究をすることが、最も重要だろう。UP NISMED は今後も日本とこのような協力を実施する中心的な役割を担っていきたい。